

備前長船刀剣博物館「日本刀の聖地」拠点計画

2021. 03. 22

目次

1. 実施体制	3
2. 事務の実施体制	4
3. 基本的な方針	
3-1. 現状分析	5
3-2. 課題	9
3-3. 文化観光拠点としての機能強化に向けて取組を強化すべき事項 及び基本的な方向性	11
3-4. 地域における文化観光の推進への貢献	13
3-5. 文化の振興を起点とした、観光の振興、地域の活性化の好循環の創出	14
4. 目標	15
5. 目標の達成状況の評価	20
6. 文化資源保存活用施設	
6-1. 主要な文化資源についての解説・紹介の状況	21
6-2. 施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者との連携	22
6-3. 施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者との連携	23
7. 文化観光拠点施設機能強化事業	
7-1. 事業の内容	25
7-2. 特別の措置に関する事項	38
7-3. 必要な資金の額及び調達方法	39
8. 計画期間	42

備前長船刀剣博物館「日本刀の聖地」拠点計画

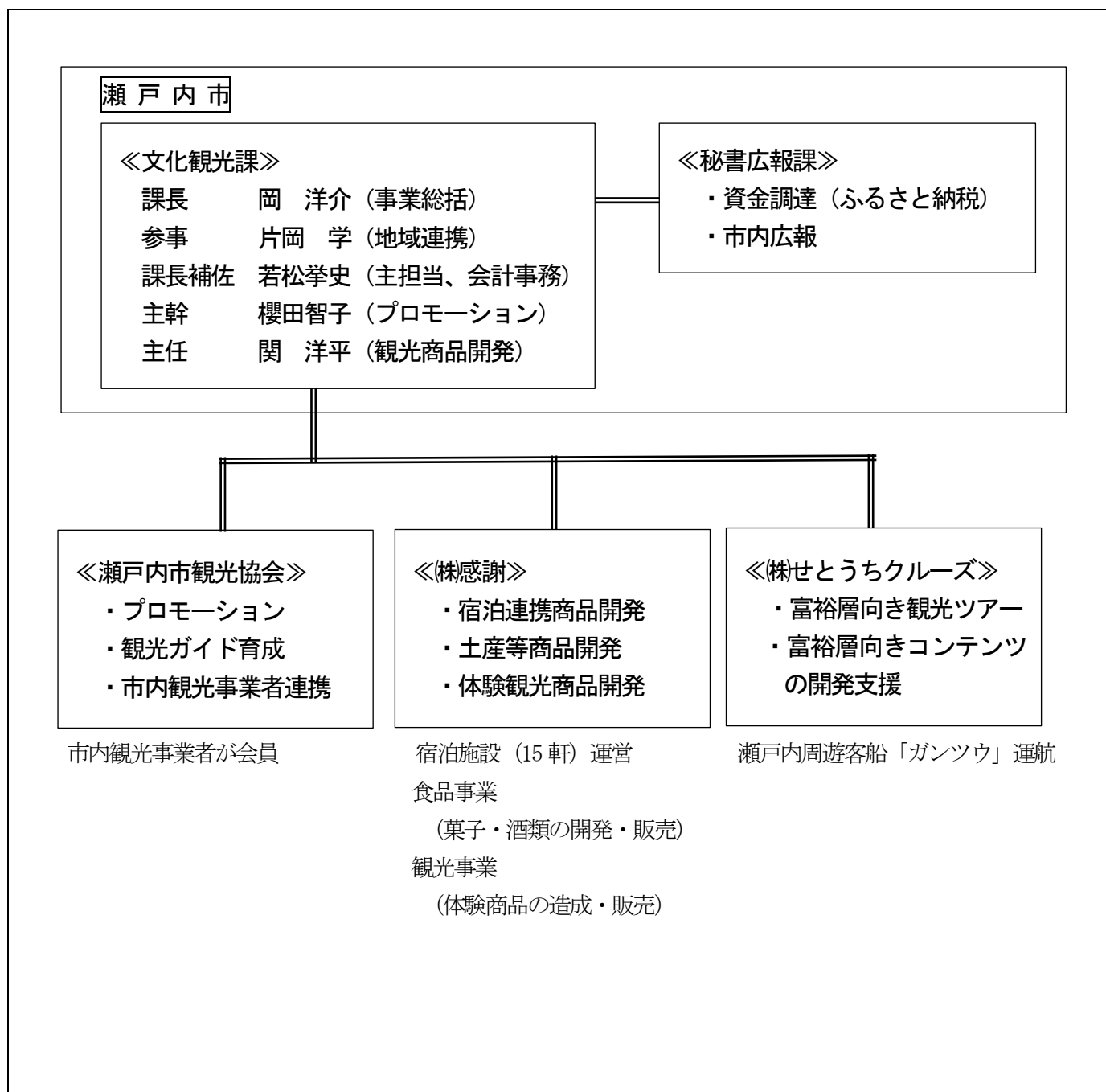
1. 実施体制

文化資源保存 活用施設	名称	備前長船刀剣博物館	所在地	岡山県瀬戸内市長船町長船 966
申請者 文化資源保存活用 施設の設置者	名称	瀬戸内市	所在地	岡山県瀬戸内市邑久町尾張 300-1
	代表者	市長 武久顕也		
	地方公共 団体内部 の役割	【主担当部署】 文化観光部 文化観光課（文化振興・観光振興） 【連携する部署】 総合政策部 秘書広報課（ふるさと納税）		
共同申請者① 文化観光推進 事業者	名称	一般社団法人 瀬戸内市 観光協会	所在地	岡山県瀬戸内市牛窓町牛窓 3031-2
	代表者	代表理事 秋山秀行		
	役割	施行規則第 1 条第 2 項第 1 号の文化観光推進事業者		
共同申請者② 文化観光推進 事業者	名称	株式会社感謝	所在地	広島県福山市霞町 2-5-7
	代表者	総責任者 濱岡喜範		
	役割	施行規則第 1 条第 2 項第 2 号の文化観光推進事業者		
共同申請者③ 文化観光推進 事業者	名称	株式会社せとうちクルー ズ	所在地	広島県尾道市浦崎町 1364 番地 6
	代表者	代表取締役社長 松本一 宏		
	役割	施行規則第 1 条第 2 項第 2 号の文化観光推進事業者		

(留意事項)

- 文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律施行規則別記様式第 1 号の認定申請書に申請者として記載する者を記載してください。
- 地方公共団体内部の役割は、文化資源保存活用施設の設置者が地方公共団体である場合に、組織内部の部署と役割を記載してください。
- 各申請者の概要が分かる資料を参考資料として添付してください。
- 拠点計画に基づく事業を行うこととなる地域の市町村及び都道府県への情報共有を行った直近の日付及び当該担当部署及び連絡先が分かる資料を参考資料として添付してください。

2. 事務の実施体制



(留意事項)

- ・計画が円滑かつ確実に実施されるための体制について詳細に記載してください。

3. 基本的な方針

3-1. 現状分析

3-1-1. 主要な文化資源

- ・ 国宝の刀剣類 111 口のうち 47 口を占める「備前刀」。その質・量ともに日本一である「備前刀」の中心的な生産地が瀬戸内市長船地域であり、「日本刀の聖地」と評され、刀剣ファンが一度は訪れたい場所である。
- ・ 長船地域では、鎌倉時代初期から日本刀の生産が行われ、現在は 7 名の刀鍛冶が居宅や工房を構え、日々作刀に励んでいる。作刀の様子は、同地に所在する「備前おさふね刀剣の里」の鍛刀場や工房で見ることができる。また、備前おさふね刀剣の里の工房では、刀鍛冶や塗師など刀職が工房に常駐し、来館者が刀職の日本刀製作作業（鍛錬、研ぎ、鞘塗り、彫金など）を間近で見たり、刀職と話ができるなど、日本刀製作という多種多様な伝統工芸技術に関わる職人の作業も見ることができる。



職人作業の公開（塗師）

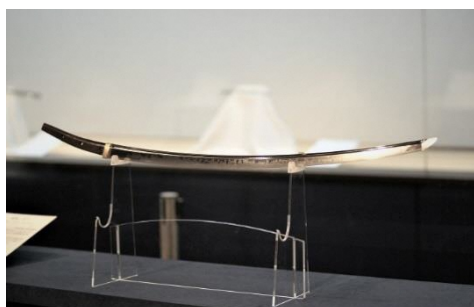


（研師）



（鞘師）

- ・ 備前おさふね刀剣の里内にある「備前長船刀剣博物館」は、刀剣専門の博物館であり、約 40 口の刀剣類を展示するとともに日本刀製作技術等を学ぶことができる。
- ・ 備前長船刀剣博物館は、長船地域を拠点にして活躍した刀鍛冶集団である福岡一文字派の最高傑作であり、備前刀の最高峰とも評される国宝「太刀無銘一文字（山鳥毛）」をはじめ、335 口の刀剣類を所蔵する。



国宝「太刀無銘一文字（山鳥毛）」



館内展示風景

- ・ 備前おさふね刀剣の里では、工房のひとつである鍛刀場にて、月 1 回、熱した鋼を刀鍛冶が鎚を振る日本刀の素材として打ち延ばし鍛錬する様子を見学できる古式鍛錬を公開するほか、玉鋼を用いた日本刀製作技術の一端を体験できる小刀製作講座や、日本刀の取り扱い方や保護・保存の技術を伝えるための手入れ講習会を定期的に開催しており、日本刀製作技術を体験することもできる。また、イベントとして刀剣鑑賞会も年に数回開催しており、実際に刀にふれる機会を提供している。



古式鍛錬



小刀製作講座

- ・ 備前長船刀剣博物館の周辺（徒歩 5 分圏内）には、刀鍛冶の菩提寺「西方寺慈眼院」や刀鍛冶が信仰した「天王社・靱負神社」、刀鍛冶が足利尊氏から賜った屋敷跡などの日本刀関連史跡等が残る。



西方寺慈眼院



市指定文化財「元之進祐定寄進の梵鐘」



刀鍛冶「上野大掾祐定」の墓



岡山県郷土記念物「天王社刀剣の森」



眼病治癒・予防の風習

3-1-2. 来訪客の動向

- ・ 瀬戸内市の観光客は、ここ数年減少傾向であったが、令和元年度は一転して大きく増加している。これは、統計スポットを見直したことに起因する。
- ・ 瀬戸内市を訪れる外国人観光客も年々増加傾向にあるが、外国人来訪者を把握できる箇所が少ないこともあり、大半が備前長船刀剣博物館の来館者である。また、外国人観光客のうち、市内に宿泊した者も年々増加している。ただし、令和2年1月以降は、新型コロナウイルス感染症により全国的にも外国人観光客が大幅に減少しているため、令和2年度は大幅に減少している。

◇瀬戸内市の観光客の推移

	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年
観光客数	927, 581	797, 123	765, 546	705, 818	1, 139, 918
うち外国人	—	2, 361	2, 402	3, 359	3, 447
宿泊者数	69, 573	61, 140	61, 223	55, 464	58, 901
うち外国人	—	391	406	806	995

※外国人観光客の集計は平成 28 年開始

- ・ 備前長船刀剣博物館の来館者数は、増加傾向にある。令和元年度は、国宝「太刀無銘一文字(山鳥毛)」の特別陳列に 7 日間で 5, 541 人の来館があり、年度末に新型コロナウイルス感染症による来館者の減少があったものの大幅に増加した要因となった。なお、平成 28 年度までの 6 か年はサブカルチャーとコラボレーションをした夏期特別展により来館者が増加しており、若い世代を中心とした新たな刀剣ファンの掘り起こしの機会になった。
- ・ 来館者は、愛刀家や歴史ファンに加え、近年の刀剣ブームを牽引する刀剣ファンの女性が急増しており、20～30 代女性の割合が増加している。県外からの来館者は近畿圏が多いが、関東からも多い。東北、九州、北海道などからの来館も少なくなく、全国から「ここに来たかった」と訪れる刀剣ファンがいる。
- ・ 外国人来観者は、増加傾向にある。ただし、令和元年度は 1 月以降に新型コロナウイルス感染症拡大

の影響を受け、微増となっている。令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大による外国人向けツアーの中止などの影響に伴い、ゼロに近い状況である。

◇備前長船刀剣博物館来館者の推移

備前長船刀剣博物館	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
来館者数	43,856	50,432	34,721	37,046	43,753
うち外国人	1,556	1,970	1,871	2,345	2,379

- ・外国人観光客の国別を見てみるとフランス人が約70%、アメリカ人が約6%であり、欧米に人気。近年は中国や台湾からの来館者も増加している。フランス人は広島ー京阪神を移動するツアーのコースに含まれ定着化しているため多くなっている。まだ総数が多いとは言えないため、今後は東南アジアや中東など、働きかけが不十分な場所に対しての外国人観光客需要の喚起と取り込みができる可能性があることから、インバウンドに対してのターゲット設定は今後の課題である。
- ・令和2年9月10日～10月4日まで国宝「山鳥毛」の特別陳列を開催した際には、刀剣をテーマにしたオンラインゲームとコラボレーションしたこともあり、コロナ禍の中でも、全国から来館者があり、来館予約（1時間40人）が開催初日の夜に満員となる人気を博した。遠方からの来館者は刀剣ファンの20～40代の女性が多い。

◇国宝「山鳥毛」特別陳列来館予約者分析

(地域別)	男性		女性		合計	
北海道・東北	4	0.10%	37	0.89%	41	0.99%
関東	50	1.21%	625	15.11%	675	16.32%
北陸	3	0.07%	19	0.46%	22	0.53%
甲信・東海	13	0.31%	211	5.10%	224	5.41%
近畿	137	3.31%	894	21.61%	1,031	24.92%
中国	447	10.80%	1,409	34.06%	1,856	44.86%
四国	26	0.63%	136	3.29%	162	3.92%
九州・沖縄	8	0.19%	115	2.78%	123	2.97%

(年代別)	男性		女性		合計	
10代	3	0.07%	126	3.05%	129	3.12%
20代	42	1.02%	935	22.60%	977	23.62%
30代	93	2.25%	1,235	29.85%	1,328	32.10%
40代	159	3.84%	781	18.88%	940	22.72%
50代	127	3.07%	276	6.67%	403	9.74%
60代	106	2.56%	45	1.09%	151	3.65%
70代	54	1.31%	14	0.34%	68	1.64%
80代	4	0.10%	2	0.05%	6	0.15%
不明	102	2.47%	33	0.80%	135	3.26%
合計	690	16.68%	3,447	83.32%	4,137	100.00%

- ・JR長船駅から備前長船刀剣博物館までの道のりは約3.5kmあり、路線バスが無く、移動手段がタクシーやレンタサイクル、徒歩になるため、来館者の約80%は自家用車やツアーバスを利用している。令和2年度の国宝「山鳥毛」特別陳列時は、来館者6,682人に対して、長船駅からのシャトルバスの利用者は1,900人（28.4%）であった。
- ・瀬戸内市長船町福岡を拠点に活躍した福岡一文字派の刀工が作刀した国宝「太刀 無銘一文字（山鳥

毛)」を生まれ故郷で保存・活用するため、ふるさと納税を活用したクラウドファンディング等により購入を目指した『山鳥毛里帰りプロジェクト』では、企業や団体から 154 件、個人から 17,354 件の寄附があり、合計 880,013,267 円を集めた。これにより国宝「山鳥毛」を購入することができ、故郷で定期的に公開できることが可能となった。この山鳥毛里帰りプロジェクトでつながった寄附者や支援者は、地域への貢献意欲や日本刀への関心が高く、国宝「山鳥毛」を活用した文化振興だけではなく、地域振興や教育振興を図る「山鳥毛里づくりプロジェクト」に対しても、継続して支援や寄附を寄せるとともに、国宝「山鳥毛」の観覧や地域の日本刀関連イベントなど日本刀による地域づくりの変化を楽しみに何度も来訪もしている。

- ・ 上記したような現状から、今後注力すべきターゲットとしては、リピート率の高い日本全国の愛刀家や刀剣ファンの女性に加え、日本文化に興味の高い欧米外国人と考えている。

3-1-3. 他の文化資源保存活用施設との比較

- ・ 日本刀は、大和、山城、備前、相模、美濃の五ヵ国が主な生産地であり、ふるくから名工や優れた刀工集団を輩出した。これらは「五箇伝」と呼ばれているが、この中でも平安時代後期から優れた刀工を数多く輩出し、国宝や重要文化財の刀剣類の約 4 割を占める備前の刀は、日本刀の代名詞と言われるほど知名度が高い。
- ・ 五箇伝の中で、日本刀を専門に展示する施設があり、刀職が在中して常に作業を公開している施設があるのは、備前おさふね刀剣の里（備前長船刀剣博物館）だけである。また、博物館周辺に日本刀に関わる史跡や社寺が残り、日本刀の一大生産拠点であったことを感じる場所には他に無い。このため、「日本刀の聖地」とも呼ばれている。
- ・ 備前おさふね刀剣の里（備前長船刀剣博物館）には工房があり、常駐する刀職や招聘する刀職を抱えているため、常に刀職に企画立案や運営に関わってもらっている。日本刀の製作を行う専門的人材と協働して館の運営や日本刀文化振興施策を進めている館は他に無い。
- ・ 東京国立博物館や刀剣博物館、佐野美術館、徳川美術館、致道博物館、ふくやま美術館、福岡市博物館など国宝や重要文化財の刀剣類を展示する博物館があるが、刀鍛冶や塗師など刀職が工房に常駐し、来館者が刀職の日本刀製作作業（鍛錬、研ぎ、鞘塗り、彫金など）を間近で見たり、刀職と話ができる。また、刀職の指導により小刀製作や刀剣の手入れ体験できる。このような施設は、備前おさふね刀剣の里（備前長船刀剣博物館）以外に無い。
- ・ 備前おさふね刀剣の里（備前長船刀剣博物館）が立地する瀬戸内市内には、文化資源を活用した施設として「夢二生家記念館」（大正ロマン画家「竹久夢二」の生家を活用した美術館）、「寒風陶芸会館」（備前焼のルーツである須恵器を焼いた寒風古窯跡群のガイダンス施設で土ひねり等の体験もできる）、「牛窓海遊文化館」（朝鮮通信使資料や牛窓だんじりを展示する資料館）、瀬戸内市立美術館がある。直近 3 カ年の来館者数を比較すると次の表のとおりである。

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
備前長船刀剣博物館	34,721	37,046	43,753
夢二生家記念館	7,268	6,414	8,466
寒風陶芸会館	7,572	7,931	9,662
牛窓海遊文化館	4,346	3,915	3,793
瀬戸内市立美術館	16,526	15,964	19,391

来館者数から日本刀が市内の他の文化資源より魅力的な素材であり、備前長船刀剣博物館が市内の文化施設の誘客拠点となっていることが分かる。

- ・ 備前長船刀剣博物館は、公共交通機関の主な玄関口となる JR 長船駅から約 3.5km 離れている。また、JR 長船駅がある赤穂線はローカル線であり、この 3/13 のダイヤ改正に伴い博物館の開館時間であ

る日中の列車運行が減便され、1 時間に 1 本の列車が運行されるのみとなった。公共交通機関を利用する遠方の来館希望者にとって交通不便な場所に位置する。

- ・ 備前長船刀剣博物館は、国道 2 号線沿いであり、高速道路「山陽自動車道」のインターから約 30 分と車やバスでの交通アクセスには比較的恵まれている。近年では、外国人観光客に人気の高い広島の高島神社や兵庫県の姫路城という日本有数の文化財を巡るツアーにおいて、道中に位置する当館は立ち寄り先として人気が高まっており、フランスのバスツアーが増加している（新型コロナウイルス拡大前時点）。

3-2. 課題

課題 1 施設の機能強化

- ・ 国宝刀剣類の展示日数は、文化庁「国宝・重要文化財の公開に関する取扱要項」により年間 60 日とされている。市としては、この要項に準じて国宝等の取り扱いを行うため、集客力の高い国宝「太刀無銘一文字（山鳥毛）」が展示されていない日が多くなる。また、工房も常に全ての刀職が作業をしているものでもない。このため、国宝未展示期間や刀職不在時に来館者の満足度を高める取組が必要である。
- ・ 平成 16 年にリニューアルし、日本刀の製作過程を紹介する展示室「刀剣の世界」を設置したが、展示解説等が日本語のみであり、情報が古くなってきたため、多言語化や体験型展示などに対応する必要がある。
- ・ 日本刀の主要生産地であった地域のストーリーを周知する展示が不足しており、地域の地勢等をわかりやすく伝える展示の充実が必要である。
- ・ ゴールデンウィークや夏休みなどの来館者が増加する時期は、駐車場の不足が生じて来館者の受入れができない事態が生じている。また、周辺の日本刀関連史跡を巡るにも周辺に駐車場が無く、観光客が散策できる受け入れ態勢が整っていない。増加する来館者の受入れや館を拠点に地域を周遊するためにも新たな駐車場の確保が必要である。

課題 2 交通アクセス

- ・ 来館者からの声や web 上のコメントでは、電車の駅から備前長船刀剣博物館までのアクセスが悪い点に対する指摘が数多く寄せられている。JR 長船駅からは約 3.5km 離れており、路線バスは無く、駅前に待機するタクシーも数が限られているため、交通アクセスの向上が求められている。
- ・ 長船駅から備前長船刀剣博物館まで徒歩で来館する人も散見される。ただ、道中に観光スポットが無いとの声が多いため、楽しみながら散策できる魅力あるスポットを作り上げる必要がある。また、同時に備前福岡の地や点在する関連史跡等をめぐる場合はレンタサイクルを利用することが便利だが、JR 長船駅前の貸出店舗が非常に分かりにくく、また、近隣駅などでの乗り捨て対応もできないことから、利便性を向上させる必要がある。
- ・ 道に迷う来館者があり、長船駅や国道 2 号線等からの案内標識・誘導板を充実する必要がある。

課題 3 情報発信

- ・ 備前長船刀剣博物館のホームページは、インターネット上のソフトで多言語対応しているが、専門用語の多い日本刀の説明は誤訳されることがほとんどである。このため、外国人にとって理解できないホームページとなっており、基本情報の多言語化（取り急ぎ英文）を進める必要がある。
- ・ 国宝「太刀無銘一文字（山鳥毛）」の購入をめざしたクラウドファンディング事業等により瀬戸内市や備前長船刀剣博物館の認知度やイメージの向上が図られた。クラウドファンディングでつながった寄附者や支援者との寄附を含めた関係を継続するために、寄附や支援を受けて実施する国宝「山鳥毛」

の活用や日本刀をテーマにした地域づくりの進捗状況など、自身の寄附や支援が成果として感じ取れるよう SNS 等を活用した事業の細かな進捗状況の発信が必要である。さらに認知度やイメージを向上し、来館者（特にリピーター）を確保するにはメディアや観光事業者等への継続した情報提供が必要である。

課題4 地域や日本刀展示施設等との連携

- ・ 備前長船刀剣博物館の周辺には、日本刀関連史跡が点在する。また、博物館から約 3.5km、JR 長船駅から約 1.5km 離れた福岡地区も刀鍛冶集団の福岡一文字派が拠点としていたとされる地であり、歴史的な町並みや戦国大名家（黒田氏、宇喜多氏）の墓所、商家の邸宅「仲崎邸」（国登録文化財）などの文化資源が残る。来館者の滞在時間を伸ばし、地域消費の拡大や来館者の満足度を高めるため、地域と連携し、周遊したくなる取組が必要である。
- ・ これまでに岡山県内の日本刀を展示する施設である岡山県立博物館や林原美術館と連携し、展示企画を開催し、来館者の巡回促進を図っている。今後は、県内のみならず東京国立博物館等の優れた日本刀を所蔵する施設と所蔵品の相互貸借や巡回展の企画などと連携し、魅力ある展示による来館者の確保を図る必要がある。
- ・ 新たに日本刀に興味を持つ人を確保するため、過去にアニメやゲーム等のサブカルチャーとコラボレーションした特別展を開催したところ、好評を博し、巡回展となったことから、日本刀に興味を持つ若い世代の確保につながった。日本刀を支えるファンを将来的に確保するため、サブカルチャーなど民間企業等と連携した企画は今後も必要である。

課題5 観光商品の充実

- ・ 備前おさふね刀剣の里には、物産館が併設され、日本刀の手入れ道具や土産等を販売している。一番の売れ筋は白鞘のペーパーナイフであり、日本刀関連の土産が人気である。しかし、日本刀関連商品は品数が少なく、品揃えが十分ではない。また現状の来館者層の中心となる 20 代～40 代の日本刀ファンである女性向けの商品や訪日外国人に対しての対応も不十分であり、魅力的な高単価商品の提示が出来ていないことから客単価も伸び悩んでいる。民間事業者を支援し、日本刀関連土産の開発を行い、物産館や道の駅等、来館者が立ち寄りやすい場所で販売し、地域消費額の向上を図ることが必要である。
- ・ 旅行者のニーズは、モノ消費からコト消費へ、さらには、コロナ禍においてトキ消費へと変化している。備前長船刀剣博物館でも小刀製作講座やペーパーナイフ作りが人気であるが、今以上に来館者の満足度や滞在時間の延長、地域消費の向上を図るため、地域の事業者や刀職者等が連携し、日本刀をテーマにした見て・触れて学べるトキ消費型の体験商品（高付加価値のある刀鍛冶体験、既存の小刀制作体験の磨き上げ等）の開発が必要である。

課題6 収入の確保

- ・ 将来的に地方交付税の減額や社会保障費が増加し、本市が財源不足に陥ることが予測されている。このため、約 5 億円の目標額を達成した山鳥毛里帰りプロジェクト（ふるさと納税制度を活用したクラウドファンディング）による成功ノウハウを継承してのふるさと納税による資金確保や付加価値の高いコンテンツ販売等による備前おさふね刀剣の里（備前長船刀剣博物館）の新たな運営経費の確保が必要である。
- ・ 来館者を顧客としてとらえ、安定的な支持者として育成するために、CRM（Customer Relationship Management）の考えのもとで、来館者との関係づくりを推進する取組を強化し、リピーターを増やすとともに入館料や商品販売額、ふるさと納税などの収入の増加を図る必要がある。

3-3. 文化観光拠点施設としての機能強化に向けて取組を強化すべき事項及び基本的な方向性

基本的な方向性

3-1 及び 3-2 で述べた状況から、今後の備前長船刀剣博物館の基本的方向性としては、「日本刀に興味を持った方が訪れるべき「日本刀の聖地」としての位置付けの確立」を目指し、備前長船刀剣博物館を拠点とした取組を進める。なお、各課題解決については、事業成果の分析や来館者や地域の声を拾い上げ、地域と連携しながらより良い取組となるよう練り直し、改善しながら進める。

取組強化事項 1：施設機能の強化（課題 1 及び 3、4 関連）

- ・ 国宝「太刀無銘一文字（山鳥毛）」や工房に居る刀職の作業を映像化し、VR や AR を用いたコンテンツを制作する。その制作したコンテンツを来館者が VR ゴーグル等で体験できるようにし、来館者が国宝「太刀無銘一文字（山鳥毛）」未公開時や刀職不在時でも日本刀の魅力や日本刀製作技術を感じることができ、満足度が高まるようにする。
- ・ 日本刀の基本的知識を学ぶ展示室「刀剣の世界」は、平成 16 年にリニューアルされたままであり内容が古くなっており、展示解説文も日本語表記しかない。このため、日本刀ファンの裾野を広げることや外国人に日本文化を分かりやすく伝えることを目指し、展示解説文の多言語化や体験展示の導入など展示内容のリニューアルを行う。また、地域の魅力の周知するため、日本刀の一大産地となった背景等について博物館において基礎知識が得られるように図り、地域での学びがより深い理解を得ることができるものになるよう進める。
- ・ 現在、空調や免震機能を有する独立した 5 面ガラス展示ケースが 1 台あり、国宝等の展示に用いている。今後、他館から貸借した指定文化財と所蔵する国宝を同時に展示し、より魅力的な展示を行うため、国宝等が展示できる展示ケースを新たに 1 台設置する。
- ・ 来館者のサービスの向上と併せ、日本刀関連史跡等の周遊の拠点となるべく、また繁忙期の路上駐車や周辺施設への無断駐車という課題を解決するため、備前長船刀剣博物館の北側に隣接する土地を買い上げ、不足分の駐車場（約 80 台分）を整備する。

取組強化事項 2：アクセスの強化（課題 2 及び 5 関連）

- ・ 市と市観光協会、地域交通事業者等が連携し、アクセス改善に取り組む。バスやタクシー、自転車を活用した取組成果を踏まえ、民間事業者が自立した運行ができるように進める。また、タクシーや自転車については、利用しやすい、利用したくなる仕組みづくりや施設整備等も含めて進める。
- ・ 国宝「山鳥毛」を展示する特別展開催時など、急激に来館者数が増える見込みがある場合には、JR 長船駅と備前長船刀剣博物館とを繋ぐシャトルバスを運行する。本計画の実行により来館者が増加した際に恒常的な定期バス運行につながるように図る。
- ・ 備前長船刀剣博物館までの使い勝手の良い移動交通手段を確保するだけでなく、周辺への波及効果を高めるため、通年利用できる備前長船刀剣博物館や日本刀関連史跡等を巡る JR 長船駅発着の観光タクシーを商品化する。
- ・ 歩いて地域を散策する観光客の満足度の向上や散策者の増加を図るため、JR 長船駅から備前長船刀剣博物館までの導線を設定し、駅からの案内板や誘導板を設置する。案内板や誘導板は、日本刀の里を感じられるデザインにするなど工夫する。
- ・ 備前福岡へのアクセス確保や点在する関連史跡への周遊促進を図るため、楽しみながら周遊できるアートレンタサイクルを導入するとともに、あわせて近隣駅周辺の事業者との調整を行い、乗り捨て対応に向けた実現に取り組む。

取組強化事項3：情報発信力の強化（課題3 関連）

- ・ 日本文化に興味を持つ外国人人材を登用し、刀剣文化を中心とした教育を施したうえで、訪日旅行客向けの館内解説パネルの作成や館内ガイド、展示解説を行う。また、刀剣文化という特殊な伝統工芸分野を理解したうえでの言語能力を活用し、ホームページ、SNS 等でのネイティブに届く形での多言語化を図り、外国人が理解し、来訪するきっかけとなるよう海外への情報発信や日本に所在するランドオペレーターへの売り込みに取り組む。なお、多言語化は観光庁「魅力的な多言語解説作成指針」に沿ったものとする。
- ・ 備前長船刀剣博物館の展示内容に合わせ、主たる来館者である、岡山県内や隣県、京阪神地域をターゲットに雑誌やテレビ等のメディアを活用した情報発信を継続して行う。また、愛刀家や刀剣ファンの女性が購読する専門的な雑誌等への掲出も継続して行う。
- ・ 日本文化に興味を持つ外国人人材を登用し、刀剣文化を中心とした教育を施したうえで、訪日旅行客向けの館内ガイドや展示解説を行うほか、刀剣文化という特殊な伝統工芸分野を理解したうえでの言語能力を活用し、ホームページ、SNS 等でのネイティブに届く形での多言語化を図り、海外への情報発信や日本に所在するランドオペレーターへの売り込みに取り組む。
- ・ 山鳥毛里帰りプロジェクトへの支援者や寄附者から継続した支援・寄附をいただけるよう、国宝「山鳥毛」の活用や日本刀をテーマにした地域づくりの進捗状況など、自身の寄附や支援が成果として感じ取れるよう SNS 等を活用した事業の細かな進捗状況の発信を行う。

取組強化事項4：連携の強化（課題4 及び5 関連）

- ・ 市と市観光協会が中心となり、地域団体、市民等の協力を経て、拠点施設と周辺地域（福岡地区等）の連携に取り組み、備前長船刀剣博物館の来館者が周辺地域を周遊したくなるイベントや日本刀文化を感じることができるよう観光スポットの磨き上げを進めるます。
- ・ 『日本刀の聖地』を感じることができるよう地域住民や団体と連携し、周遊路の設定や環境整備を行い、さらに、散策マップや看板の整備、ガイドの育成を行い、周遊促進を図る。また、展示会に合わせて、日本刀関連史跡でイベントを開催し、観光客の満足度を高める。
- ・ ガイドについては、「日本刀」のテーマに特化した、博物館だけではなくエリアガイドとする。養成講座をしっかりと行い、日本刀の知識だけではなくおもてなしの技術を身に付け、愛刀家や刀剣ファン、観光ツアーのガイドに対応できるように進める。
- ・ 長船地域を中心とした地域で作られた備前刀の優品を所蔵する他文化施設等と所蔵品の相互貸借や合同企画を行い、より魅力的な展示を作り上げ、来館者数の増加と入館料の確保を行う。
- ・ 新たな刀剣ファンや次代の日本刀産業を支える若い世代の取り込みを促進するため、サブカルチャーとコラボレーションした展示会を開催する。また、その際には地域企業等と連携してご当地コラボグッズやグルメを開発し、地域消費の拡大も図る。

取組強化事項5：収益力強化（課題5 及び6 関連）

- ・ 来館者の満足度や地域消費の向上を図るため、民間事業者を支援して日本刀をテーマにした、刀剣の里を有する立地ならではの特性を活かした観光商品（土産品）の開発及び販売を推進する。具体的には、刀職の仕事で用いる素材をベースにした装飾品や実用品、フルーツをはじめとする地域の特産品を用いて刀剣を想起させる形状に仕上げた食品など。また開発した商品については、当地のプレミアムな商材として、ふるさと納税の返礼品としての活用も視野にいれて考える。
- ・ 来館者の満足度や地域消費の向上を図るため、宿泊や旅客事業者、刀職と連携し、日本刀の製作体験や日本刀鑑賞会等の普段できない特別な観光商品の開発及び販売を推進する。刀職が揃うのが刀剣の里の強みであるので、刀匠と長時間にわたって作業を共に行うプライベートツアー的な刀鍛冶体験

や、砥ぎや柄巻、装剣金工などの作業の一部を体験できるようにし、持ち帰りができるようなものに仕上げる体験などが想定できる。また、開発した観光商品を活かし、日本刀を深く理解できるツアーとして造成できるよう進める。

- ・ ふるさと納税による山鳥毛里づくりプロジェクトへの寄附金を本市担当課と連携して継続して集める。山鳥毛里帰里プロジェクトでつながった本市日本刀関連事業に関心のある刀剣ファンが継続して支援（寄附）したくなるよう、国宝「山鳥毛」を活用した事業や商品の開発・販売、それら日本刀をテーマにした地域づくりの進捗状況など自身の寄附や支援が成果として感じ取れる SNS を活用した定期的な情報発信を行う。
- ・ 国宝「山鳥毛」の VR 等デジタル技術を活用したコンテンツの有料体験や入館料を高く設定できる他の文化的施設等や民間企業と連携した魅力的な展示を開催し、備前長船刀剣の里（備前長船刀剣の里）の収益の増加を図る。

取組強化事項6：CRMマーケティング対策（課題3及び5及び6関連）

- ・ 備前おさふね刀剣の里という拠点の性質は、刀剣に興味を持つ者が来館動機の9割以上を占めることが想定できるものであり、マスマーケティングを狙うのではなく、あらためてコンセプトを明示し、発信受信・そして相互のやり取りを通して観光客との関係性を密に進める。
- ・ 来館者とのマッチングの機会を増やす試みとしてSNSの活用を行う。備前おさふね刀剣の里内にある長船ふれあい物産館では、山鳥毛里帰里展示の際に販売商品等をツイッターに投稿し、来館者や来館希望者から既存商品への意見聴取を行い、ブラッシュアップした商品の販売へつなげるなど相互のやり取りを行い、22日間で990万インプレッションを得るとともに顧客から多大な満足度を得ることができた。今後もこの実績がある手法を積極的かつ継続的に活用し、日本刀の聖地としてのコンセプトを強く打ち出しながら、観光客等の声を反映した商品を開発するなどで、モノに価値と物語をプラスし、そのコンセプトに共感できる観光客等を支援者として育成し、そこに確実に商材を届けていく試みを実施する。
- ・ 主要な顧客に対し、よりプレミアムな待遇や特別商品の購入機会の設定、体験プログラム等を用意するなど、より深く濃密な顧客との接点を築き、セールス・ファネルを意識した応援者の育成を図る。

3-4. 地域における文化観光の推進への貢献

日本刀は、日本が世界に誇る伝統工芸品であり、日本人のみならず、欧米を中心とした世界中で評価を得、興味関心を持つ人が増えてきている。それは、平成29年7月に瀬戸内市が作成した日本刀の製作工程を紹介した動画を在米日本大使館広報センターが公開したところ、11日後に再生回数が1000万回を突破し、アメリカのみならず世界各国から「職人技に感動した」「日本刀がなぜ高価なのか理由が分かった」などのコメントが寄せられたことや、令和元年11月から100日間ポーランドの博物館で開催された「備前刀展」（主催/Manggha 日本美術技術博物館、協力/備前長船刀剣博物館・全日本刀匠会）が開催され、オフシーズンにもかかわらずポーランドだけではなく近隣国から来館者約1万人を集め好評を博したことからわかる。

備前長船刀剣博物館の来館者については、3-1-2で記載した通りであり、増加傾向である。特に国宝「無銘一文字（山鳥毛）」は、令和元年10月に公開した際には、7日間で5,541人（年度来館者数の約12.7%）を集め、また、令和2年9月の公開に際しては、感染症拡大防止対策のため、事前予約制で来館者を限定したところ、開催初日の夜には会期の22日間の全部が満員（一日当たり320人）となるなど「日本刀」が来訪のきっかけとなる文化資源となっている。

この「日本刀」の中でも質・量ともに日本一の「備前刀」の中心的生産地に構える備前長船刀剣博物館を拠点に本拠点計画を推進することで、来館者が見るだけではなく日本刀の製作技術等を体験し、日本刀

の魅力を感じることににより、美術品としての「日本刀」のみならず、日本人の「物づくり」や「武士道」など日本刀に見る日本人の精神文化などの理解をより一層の深めることにつながる。また、地域住民や民間事業者等と連携することで、シビックプライドの醸成や「日本刀」への理解を広げ、深めることにつながる。

3-5. 文化の振興を起点とした、観光の振興、地域の活性化の好循環の創出

備前長船刀剣博物館への来訪者は、周辺の飲食店や観光販売所にも立ち寄り、地域消費の拡大に寄与していることは、店舗へのヒアリングや来館者が SNS 等に掲載した内容からも見て取れる。しかし、日本刀に関連した商品がごく僅かという状況である。

本推進計画により、「日本刀」が地域の特徴的な文化資源である認識が広まることで、「日本刀」をテーマにした観光商品の開発・販売の拡大により、地域経済の活性化が促進される。また、来館者の周辺地域への周遊促進や体験観光による滞在時間の延長、高単価のサービスを提供する宿泊事業者及びクルーズ船運航業者等との誘客連携プランなどにより、刀剣の里自体の高収益化を図ると共に周辺地域の地域消費の拡大が見込まれる。

国宝「太刀無銘一文字（山鳥毛）」を購入するために実施した山鳥毛里帰りプロジェクトでは、個人や企業・団体から約 8.8 億円の寄附が集まり、国宝「山鳥毛」を購入することができた。同プロジェクトを進める中で「日本刀」に対する理解が深まり、「日本刀」により地域経済の活性化や地域振興が促進されたと感じた人や企業・団体が増え、企業が地域貢献の一環として自社のトラックやバスに国宝「山鳥毛」や本市の日本刀をテーマにした地域振興へのふるさと納税を PR するラッピングを施したり、継続して山鳥毛里づくりプロジェクト（国宝「山鳥毛」を活用した文化振興施策）に対するふるさと納税につながっており、収益力の強化につながっている。

令和 2 年においても山鳥毛里づくりプロジェクトに対し 2 百万円以上の個人版ふるさと納税等の寄附をいただいたが、今後もそうした収益を「日本刀」をテーマにした文化振興や地域振興事業の財源として活用し、本計画に記載した取組等を実施することで、拠点となる備前長船刀剣博物館と周辺地域の魅力が高まり、交流人口（観光客等）や関係人口の増加につながる好循環をもたらす。また、寄附者においても自身の寄附によって地域が良く変わったと実感できることで、さらなる寄附につながるという好循環にもつながる。

さらに、刀職の育成や刀職の製作物が売れることによって、刀職の育成や支援となり日本刀製作技術の継承を図ることができ、刀職が集う地域となり、地域の日本刀に関する産業の振興にもつながる。

本計画の実施により、入館者数の増加による入館料の増加分や本事業により開発した体験商品等の入館料以外の新たな収入に加え、ふるさと納税を活用した資金調達により新たな財源を確保することができ、継続した事業展開を含めた日本刀に関わる文化活動に再投資される好循環を生み出すことができる。さらに、日本刀産業が地域で確立されることにより日本刀製作に関わる刀職の育成や人材確保につながり、伝統技術や文化の保存・継承も図られ、「文化観光」の趣旨を実現できる。

（留意事項）

- 3-1-1 には、本拠点計画に係る文化資源保存活用施設が展示している文化資源の数と内容、そのうち、主要な文化資源の分類（別記に示す類型を用いること）、数及び具体例を記載してください。また、具体例として挙げた主要な文化資源の写真等を参考資料として添付してください。
- 3-1-2 には、文化資源保存活用施設及び周辺地域への来訪者数及びそのうち訪日外国人旅行者数、その属性等をそれぞれ記載してください。
- 3-1-3 には、本拠点計画に係る文化資源保存活用施設と周囲の文化資源保存活用施設の現状との比較や、参考とすべき他の先駆的な文化資源保存活用施設との比較等により、本拠点計画に係る文化資源保存活用施設の強みや弱みを分析してください。
- 3-2 には、3-1 の記載内容を踏まえ、本拠点計画に係る文化資源保存活用施設が抱える課題を、ターゲットとする来訪者を明確にして記載してください。また、2-1-2 の記載も踏まえ、文化観光拠点施設としての要件を満たしていない場合には、文化観光拠点施設の要件を満たすための課題について明確に記載してください。
- 3-3 には、3-2 の記載内容を踏まえ、文化観光拠点施設としての機能強化に向けて取組を強化すべき事項及びその基本的な方向性を記載してください。
- 3-4 には、拠点計画による文化観光の推進が、文化観光拠点施設の機能強化に留まらず、当該施設の所在する地域における文化観光の推進にも貢献するものであることについて記載してください。
- 3-5 には、文化の振興を起点として、経済の牽引や相互理解の増進につながる観光の振興を図り、さらには、人の往来や購買・宿泊等の消費活動の拡大などを通じた地域の活性化を実現することで、新しい文化の創造も含めた文化の振興に再投資される好循環をどのように創出するのか記載してください。

4. 目標

目標①：来館者数（課題１・２・３・４・６関連、取組強化事項１・２・３・４・５関連）							
（目標値の設定の考え方及び把握方法） 新型コロナウイルス感染症により、外国人旅行者がほぼ０となり、国内旅行の回数が減少しているが、魅力ある展示等の開催により外国人来館者数を差し引いた実績数を維持し、周辺整備や施設機能強化等による満足度を高め、リピーターを確保しつつ、刀剣に興味を持つ人を新たに増やして来館者が増加すると設定。 把握方法は、備前長船刀剣博物館の受付にて把握する。							
年度	実績		目標				
	平成30年度	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標値（人）	37,046	43,753	42,000	44,000	46,000	50,000	50,000
事業１－④： 国立館等との連携展示事業			（企画準備）	（企画準備）	展示開催 （次の企画準備）	（企画準備）	展示開催
事業１－⑤： サブカルチャーコラボ 展開催事業			（企画準備）	コラボ展の開催	（企画準備）	コラボ展の開催	（企画準備）
事業１－⑦： 国宝「山鳥毛」拵修復 事業			修復	（修復後の状況確認、調査・研究）	（公開）	（公開）	（公開）
事業２－①： 山鳥毛・刀職作業デジタルコンテンツ作成事業			コンテンツの作成 （コンテンツの公開）	（コンテンツの公開）	（コンテンツの公開）	（コンテンツの公開）	（コンテンツの公開）
事業３－①： シャトルバス運行事業			国宝「山鳥毛」公開に合わせたシャトルバスの運行	国宝「山鳥毛」公開、コラボ展に合わせたシャトルバスの運行	国宝「山鳥毛」公開、特別展に合わせたシャトルバスの運行	国宝「山鳥毛」公開、コラボ展に合わせたシャトルバスの運行	国宝「山鳥毛」公開、特別展に合わせたシャトルバスの運行

事業３－②： 観光タクシー商品造成 事業			仕組み構築、PR、 試行	試行	試行	(運営)	(運営)
事業３－③： レンタアートサイクル 事業			(検討、芸術家の 選定)	(デザイン協議、 仕組み構築)	アートサイクルの 作成、試行 (運用)	(運用)	(運用)
事業３－④： 案内看板整備事業			(導線の検討、現 場確認)	看板設置	看板設置	看板設置	
事業５－① 日本刀の聖地情報発信 事業			雑誌やTV等を活用 した情報発信	雑誌やTV等を活用 した情報発信	雑誌やTV等を活用 した情報発信	雑誌やTV等を活用 した情報発信	雑誌やTV等を活用 した情報発信
事業６－①： 展示ケース購入事業					展示ケースの購入 (展示ケースの使 用：文化財価値の 高い作品展示)	(展示ケースの使 用：文化財価値の 高い作品展示)	(展示ケースの使 用：文化財価値の 高い作品展示)
事業６－③： 備前長船刀剣博物館駐 車場整備事業			土地の測量、設計	土地の造成、舗装	(運用)	(運用)	(運用)

目標②：外国人来館者数（課題関連１・２・３・４・５、取組強化事項１・２・３・４・５関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

新型コロナウイルス感染症の影響により３年程度は外国人観光客が回復しないと考えられ、外国人観光客数の回復までは旅行喚起を行い、外国人観光客の回復とともに早期に実績数の約２,０００人を確保し、その後の増加する設定とした。なお、１０年後の令和１２年度には、４,０００人以上を目指す。

把握方法は、備前長船刀剣博物館の受付にて把握する。

年度	実績		目標				
	平成３０年度	令和元年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
目標値（人）	２,３４５	２,３７９	１００	３００	１,０００	２,０００	２,４００
事業２－②： 多言語対応専門人材の確保			人材の募集、採用、 人材の文化資源の 学習	多言語による情報 発信、解説等多言語 標記の促進	多言語による情報 発信、解説等多言語 標記の促進	多言語による情報 発信、解説等多言語 標記の促進	多言語による情報 発信、解説等多言語 標記の促進
事業５－②： 備前長船刀剣博物館ホ ームページ多言語化事 業				（ホームページ構 成案の検討）	ホームページの多 言語化	（運用）	（運用）
事業５－③： 外国人観光客ツアー誘 客促進プロモーション 事業				インバウンド商談会 でのＰＲ、ランドオペ レーター訪問、インバ ウンド向け web サイト への掲出	インバウンド商談会 でのＰＲ、ランドオペ レーター訪問、インバ ウンド向け web サイト への掲出	インバウンド商談会 でのＰＲ、ランドオペ レーター訪問、インバ ウンド向け web サイト への掲出	インバウンド商談会 でのＰＲ、ランドオペ レーター訪問、インバ ウンド向け web サイト への掲出

目標③：来館者の満足度（課題１・５関連、取組強化事項１・５関連）							
（目標値の設定の考え方及び把握方法） 来館者は愛刀家や刀剣ファンなど専門的知識を持つ人が多くみられ、求められるレベルは高く、満足した割合を高めることは難しいと考える。しかし、魅力ある展示や日本刀関連商品の品ぞろえ、日本刀の聖地を感じる地域づくりができてくればその割合が高まってくるものと考えて設定した。 把握方法は、備前長船刀剣博物館に設置した来館者アンケートを集め、「とても満足した」及び「満足した」と回答した人の割合とする。 ※アンケートは、現在実施しておらず、実施は展示室空調等整備工事後の令和３年４月からを予定							
年度	実績		目標				
	平成 30 年度	令和元 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
目標値（％）	—	—	67	70	75	80	80 以上
事業１－①： 備前長船刀剣博物館所蔵品データベース化事業					システム設計、所蔵品の撮影等基礎資料作成	所蔵品の撮影等基礎資料作成、システムの構築・公開	（データベース運営、管理）
事業１－②： 地域と連携した満足度向上イベント開催事業			展示に合わせた地域イベントの開催	展示に合わせた地域イベントの開催	展示に合わせた地域イベントの開催	展示に合わせた地域イベントの開催	展示に合わせた地域イベントの開催
事業１－③： 日本刀の里ガイド養成事業			（養成講座の準備）	養成講座の開催 ガイド試行	ガイドの養成、試行、案内資料の作成	ガイドの質の向上、運営、案内資料の作成	ガイドの質の向上、運営、案内資料の作成
事業１－⑧： 刀職育成・確保推進事業			（計画協議）	研修、スキルアップ支援、被服貸与	研修、スキルアップ支援、被服貸与、育成講座	研修、スキルアップ支援、被服貸与、育成講座	研修、スキルアップ支援、被服貸与、育成講座

目標④：備前おさふね刀剣の里内入館料以外の売り上げ（課題５関連、取組強化事項５関連）							
（目標値の設定の考え方及び把握方法） 来館者の増加が基本的に売り上げにつながり、特に外国人観光客の客単価は高く、外国人観光客数が回復し、増加すると売り上げが伸びると考えて設定した。また、日本刀関連商品（土産や飲食物）や体験商品、ツアーの開発が進み、品揃えが充実すれば新たな収入確保につながると考えて設定した。 把握方法は、物産館の販売実績や開発した体験ツアーの販売実績により把握する。							
年度	実績		目標				
	平成30年度	令和元年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標値（千円）	15,088	17,482	15,000	18,000	20,000	22,000	24,000
事業１－⑥： 高付加価値体験商品開発事業			商品開発、モニターツアーの開催、商品のブラッシュアップ	商品開発、モニターツアーの開催、商品のブラッシュアップ	販売	販売	販売
事業４－①： 日本刀関連商品造成支援事業			民間企業等と連携した日本刀関連商品の開発	民間企業等と連携した日本刀関連商品の開発	民間企業等と連携した日本刀関連商品の開発	民間企業等と連携した日本刀関連商品の開発	民間企業等と連携した日本刀関連商品の開発
事業４－②： 日本刀体感ツアー造成事業			ツアーの企画、試行	ツアーのブラッシュアップ、試行	（販売）	（販売）	（販売）
事業４－③： 特別展連携地域消費拡大事業				コラボ展の開催に合わせた商品開発、イベントの開催	特別展の開催に合わせた商品開発、イベントの開催	コラボ展の開催に合わせた商品開発、イベントの開催	特別展の開催に合わせた商品開発、イベントの開催

（留意事項）

- ・3-3 の基本的な方向性に沿って、文化の振興を起点とした、観光の振興、地域の活性化の好循環を創出するために拠点計画で達成する目標について、どのような事業をどの程度実施すべきか客観的に判断できるよう、具体的に設定してください。
- ・文化についての理解を深められることによる来訪者の満足度の向上、国内外からの来訪者数の増加（特に、国外からの来訪者数については、今後10年間で2倍程度まで増加するよう、計画期間に応じて適切に目標を設定してください。）に加え、例えば、リピーター率の上昇等について、実施する事業の効果を適切に評価するための明確な目標を設定してください。
- ・各事業について、主要な目標を1つ選択し、当該目標の項目に、各年度に実施する事業内容を記載してください。複数の目標に同一事業を記載するものではありません。

5. 目標の達成状況の評価

令和5年度に外部委員で構成する有識者会議による中間評価の実施を予定する。
中間評価において、本計画による事業の有効性について評価し、必要ある場合は、委員からの意見を基に事業計画の見直しを図る。

令和7年度の計画終了時に有識者会議により計画達成度について評価し、委員からの意見を参考に計画終了後の事業の継続を図る。

◆瀬戸内市太陽のまち創生有識者会議

- (産 業) 瀬戸内市商工会 会長
一般社団法人瀬戸内市観光協会 代表理事
岡山市農業協同組合瀬戸内営農センター センター長
- (公官庁) 岡山県備前県民局地域づくり推進課 課長
- (学 校) 岡山商科大学経済学部 准教授
- (金 融) 株式会社中国銀行邑久支店 支店長
- (労 働) 連合岡山岡山地区協議会 事務局長
- (言 論) 株式会社山陽新聞社 編集委員室長
- (NPO等) 公益財団法人みんなでつくる財団おかやま 代表理事
- (子育て) 瀬戸内市主任児童委員
- (事務局) 瀬戸内市(総合政策部企画振興課)

(留意事項)

- ・4.において設定した目標の達成状況を誰がどのように評価し、改善につなげるかについて記載してください。原則としておおむね3年後に行う中間評価や計画の終了時に向けて、本拠点計画に基づき実施する事業の効果を目標に照らして適切に把握し改善につなげる方法等について記載してください。

6. 文化資源保存活用施設

6-1. 主要な文化資源についての解説・紹介の状況

6-1-1. 現状の取組

- ・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）

備前長船刀剣博物館は、文化資源である「日本刀」に特化した博物館であり、日本刀の基礎知識や日本刀の製作工程を学ぶことができる「刀剣の世界」、日本刀の芸術価値を感じることができる本物の日本刀を常時展示する「展示室」、日本刀製作に関わる刀職が作業する「工房」を備え、日本刀の魅力を基本的なことから学ぶことができるよう解説や紹介を行っている。

「刀剣の世界」では、子どもたちが日本刀について学ぶことができるタッチパネル式の機器や日本刀の重さを体験できる体験展示を設けている。

- ・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）

日本刀製作を紹介する映像コンテンツを日本刀の基本的知識を学ぶ展示室「刀剣の世界」で視聴できる。

また、タッチパネル式ディスプレイでは、クイズ形式で日本刀にまつわる言葉や日本刀の製作等を知ることができ、子どもも興味を持って日本刀を知ることができる。

令和2年度には、備前おさふね刀剣の里工房で作業公開する刀職の360°VR映像コンテンツを作成し、インターネット上で有料公開し、普段見ることができない目線で刀職の作業を見つことができる。VRゴーグルを用いた体験イベントも開催した。◆収益力強化事業（文化庁）R2

令和3年2月には、コロナ禍で緊急事態宣言発令により、来館できない人向けに無料オンラインツアーを開催し、最大同時視聴1,550人、累計参加人数5,500人の参加者を得た。◆誘客多角化事業（観光庁）R2

- ・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）

日本刀の製作工程（古式鍛錬）を学ぶ映像には、英語やフランス語の字幕を付したものを作成している。また、製作工程を説明したパネルの英語版パンフレットを作成している。

展示等を案内するボランティアには、1名英語対応できる者が在籍しており、そのボランティアが在館している際に外国人の来館があった場合は、声を掛けて必要に応じて案内している。

外国人観光客のツアーに対しては、ツアーに帯同している通訳（引率者）が解説パネルやボランティアへの聞き取りにより、館内の説明を行っている。

6-1-2. 本計画における取組

- ・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）

備前長船刀剣博物館の所蔵品を調査・研究し、その成果をデジタルアーカイブにまとめ、館内展示解説に活用するほかインターネット上で公開する。

360°方向から鑑賞することができる国宝や重要文化財を展示できる展示ケースを追加購入し、他の文化施設等との貸借が促進される国宝等が展示可能な環境を整え、国宝等の優れた日本刀を並べて展示するとともに、他の文化施設等で見る角度からの鑑賞ができることなどにより、日本刀の素晴らしさを感じ、日本刀文化への理解を深めてもらう。

さらに、展示鑑賞だけにとどまらず、日本刀を手にとって触れる鑑賞体験の機会を設けることや、マナーや手入れ方法を伝える場を作ること、小刀制作などを通して実際に日本刀の技術の一端に触

れることができるような付加価値の高い体験コンテンツの強化を推進する。

・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）

国宝「山鳥毛」や刀職のVR・AR等のデジタルコンテンツを制作し、展示鑑賞ではできない手に持って鑑賞するような疑似体験ができるようにする。また、見ている箇所と連動した音声ガイドによる作品の紹介を行う。また、5G等の通信技術を使い、博物館と学校の連携した地域学習への活用による来訪（博物館の教育利用）へとつなげる。

さらには、令和3年2月の無料オンラインツアーの試行が一定の成功を収めたことから、実際の販売に繋がる取組を進めるとともに、併せて多言語化することによってコロナ禍において、日本に来たくても来れない海外在住者に向けた販売ツールを整備する。◆来訪意欲を増進させるためのオンライン技術活用事業に申請予定（観光庁）R3

・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）

日本刀の基礎知識がある外国人（ネイティブ）を採用し、現在整備できていない館内の解説パネル等の基礎情報の多言語化を進めるとともに外国人観光客の案内や多言語の情報発信等を行う。

また、日本刀製作技術等の基礎知識を得る展示室「刀剣の世界」を日本刀ファンの裾野を広げることや外国人に日本文化を分かりやすく伝えることを目指し、展示解説文の多言語化や体験展示の導入など展示内容のリニューアルを行う。

なお、多言語化は、観光庁「魅力的な多言語解説作成指針」に沿って整備する。

6-2. 施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者との連携

6-2-1. 現状の取組

・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築

瀬戸内市観光協会は、市内の観光事業者を会員に持ち、市とそれら事業者をつなぐ役割を担っている。また、市と協働して観光情報の発信や誘客事業の実施など行っている。

・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析

備前長船刀剣博物館において、来館者データを収集し、分析・整理して、ターゲットや展示企画のテーマ設定の参考にしている。また、地域の日本刀に関連する史跡や文化財についても、資料収集を行っており、市内所在の文化資源の把握をしている。

来観者の反応等については、随時SNS等をチェックし、館の運営等の参考にしている。

・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立

購入した国宝「無銘一文字（山鳥毛）」の活用基本方針である「山鳥毛里づくりプロジェクト」において、日本刀をテーマとした文化観光の推進やKPIについて記している。

6-2-2. 本計画における取組

・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築

瀬戸内市観光協会は、インターネットやメディアを活用した観光情報の発信や民間観光事業者等のツアー造成支援、ガイドやレンタサイクルなど観光客のおもてなしに関する事業の役割を担う。また、会員である市内観光事業者と密に連絡を取りながら、観光客数増加につながる観光誘客事業

の展開を進める役割を担う。

R3 年度には第二種旅行業の登録を取得する予定であり、国内向けの旅行商品の取扱いを進めることとしている。

・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析

入館者予約システムや観光動向調査等によって観光客の推移の変化や地域消費の増減を推察する。また、アンケートやSNS 上での評価、モニター調査の意見等を参考にターゲットの絞り込みやPR 手法、商品開発等に反映する。

・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びK P I の設定・P D C Aサイクルの確立

瀬戸内市総合計画や山鳥毛里づくりプロジェクト等の KPI を瀬戸内市太陽のまち創生有識者会議に報告し、事業評価を受ける。有識者や来館者の意見を受けて事業の見直し、ブラッシュアップを行いながら推進する。

6-3. 施行規則第 1 条第 2 項第 2 号の文化観光推進事業者との連携

6-3-1. 現状の取組

・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めた賑わいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施

国宝を展示する機会や多くの来館者が見込まれる特別展等には、JR 長船駅と備前長船刀剣博物館を結ぶシャトルバスを運行している。

JR 長船駅に乗り入れるタクシー事業者と協議し、備前長船刀剣博物館や日本刀の関連史跡等を巡る観光タクシーの開発を協議している。

宿泊施設や刀職等と連携し、日本刀をテーマにした普段できない日本刀に関わる体験ができる特別なツアー造成の協議を進めている。

6-3-2. 本計画における取組

・文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めた賑わいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施

全国から多くの来館者が予測される展示の機会には、備前長船刀剣博物館の公共交通機関の玄関口となる JR 長船駅からのシャトルバスを運行するとともに、JR 長船駅からの観光タクシー商品を開発して通年運行できるように進める。また、備前福岡の地や点在する関連史跡に楽しみながらアクセスできるようレンタアートサイクルの導入を進める。

クルーズ船ガンツウ等の高単価のサービスを提供する株式会社せとうちクルーズと連携して「せとうちの伝統文化と技術を体験する航路」の体験プログラムの開発やブラッシュアップを行い、高付加価値型の旅行者が刀職等の専門的人材の指導により日本刀を手にとって鑑賞できる機会や刀工から直接指導を受けてペーパーナイフ等の製作を行う体験など独自の体験プログラムを提供するほか、株式会社感謝が運営する市内の宿泊施設であり大部屋や敷地を持つ岡山いこいの村を活用して、刀匠が付きっきりで、玉鋼から作った素材を整形し、銘切り、施設に設置した炉で焼き入れなどの本格的な刀剣体験を、数日のうちにまとめて行う滞在型の小刀制作プログラムの提供などを想定する。

地域や市民が中心に構成する団体等を連携し、地域を挙げた盛り上がりを出し、地域が日本刀を誇りに思うとともに、地域の賑わいの創出、地域消費の拡大を進める。

また、市内に居や工房を構える刀職を増やし、地域に日本刀産業が継続的に根付き、特徴ある

地域づくりに資するよう進める。

(留意事項)

- 6-1 には、主要な文化資源に関する施行規則第 1 条第 1 項各号に規定する解説・紹介について、現状及び本計画における取組を記載してください。また、解説・紹介の取組の内容を示す写真等を参考資料として添付してください。
- 6-2 には、施行規則第 1 条第 2 項第 1 号の文化観光推進事業者との連携について、現状及び本計画における取組を記載してください。
- 6-3 には、施行規則第 1 条第 2 項第 2 号の文化観光推進事業者との連携について、現状及び本計画における取組を記載してください。
- 6-1～6-3 の「現状の取組」に、これまでの取り組みの中で国からの補助金を活用している取り組みがあれば、当該取組について「事業名」「補助金額」「補助金の所管省庁」を記載してください。

7. 文化観光拠点施設機能強化事業

7-1. 事業の内容

7-1-1. 文化資源の魅力の増進に関する事業

(事業番号 1-①)

事業名	備前長船刀剣博物館所蔵品データベース化事業
事業内容	現在、台帳で管理している備前長船刀剣博物館の所蔵品のデータベースを作成し、所蔵品の文化的価値等の調査研究を進めることにより、魅力ある展示会の企画立案や展示解説を充実することができる。 また、データベース化することで、所蔵品の概要や法量などを素早く検索できるなど展示会のテーマに応じた所蔵品のピックアップや提案につながり、他の文化施設等との連携や展示品等の貸借が促進されるなど所蔵品の活用が図られる。 さらに、優れた収蔵品を web 等で広く公開することにより、展示される所蔵品の魅力を知ることができ、来館者の期待感を高め、誘客促進にもつながる。
実施主体	瀬戸内市
実施時期	令和5～6年度
継続見込	新たな収蔵品については、その都度データベース化を行う
アウトプット 目標	来観者の満足度への寄与（目標③の達成） データベース化した収蔵品数 100%
必要資金 調達方法	12百万円（内訳：4百万円（市費）、8百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

(事業番号 1-②)

事業名	地域と連携した満足度向上イベント開催事業
事業内容	備前長船刀剣博物館で開催する展示会の内容に合わせ、市と市観光協会が中心となり地域住民や地域団体、民間事業者と連携し、古式鍛錬や刀剣鑑賞会などの体験や演劇、太鼓等によるおもてなし、地域の農産物生産者や加工者によるブース出展、アプリ等を活用した周遊ラリー等を備前長船刀剣博物館やその周辺地域で開催し、来館者の増加や満足度の向上につなげる。 令和2年秋に開催した特別展時には、コロナ禍のため周遊促進をしていなかったにもかかわらず、鞆負神社や慈眼院、離れた備前福岡までタクシーや徒歩で来館者が回ったことが管理者や来館者 SNS 等から確認できた。また、特別展にちなんだ飲食メニューを開発した店舗もあり、SNS 上で話題になったこともあり多くの来館者等が食べに行くことにつながった。このように特別展にちなんだ周辺の取り組み等により、満足度が高まり、複数回訪れる人や1日中地域に滞在することにもつながり、さらに SNS 上では来館した人が「再来したい」、来館できなかった人が SNS を見て「次回はぜひ行きたい」という書き込みが目立つ結果となった。この実績等を活かし、観光協会が中心となり、商工会や地域の事業者を巻き込んで地域全体で連携した地域消費を促進する取組を行い来訪者の満足度を高める。
実施主体	瀬戸内市、瀬戸内市観光協会

実施時期	令和3～7年度
継続見込	継続して事業を実施する
アウトプット 目標	来観者の満足度への寄与（目標③の達成） 活動に参加した地域住民の延べ人数
必要資金 調達方法	15百万円（内訳：5百万円（市費）、10百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

（事業番号1－③）

事業名	日本刀の里ガイド養成事業
事業内容	開発する富裕層向けの体験やツアーの観光客、観光タクシーを利用する刀剣ファンを備前長船刀剣博物館やその周辺、備前福岡地域にある日本刀関連史跡等を案内するおもてなしガイドを養成し、有償案内できる日本刀の里ガイド（仮称）を立ち上げ、来館者の日本刀文化に対する知識の深化や満足度の向上につなげる。養成講座では、日本刀の知識だけではなく、おもてなしの技術を身につけ、愛刀家や刀剣ファン等のガイドに対応できるようにする。 また、周遊マップ等のガイド基礎資料の作成を行い、ガイドの質の確保を確保するとともに、案内者に配布し、日本刀文化に対する知識の深化や満足度の向上につなげる。
実施主体	瀬戸内市、瀬戸内市観光協会
実施時期	令和4～7年度
継続見込	継続して事業を実施する
アウトプット 目標	来観者の満足度への寄与（目標③の達成） ガイド参加人数
必要資金 調達方法	4百万円（内訳：1.6百万円（内訳：2.4百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）））※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

（事業番号1－④）

事業名	国立館等との連携展示開催事業
事業内容	文化観光推進法第21条に定める国等による資料公開への協力を得て、これまで瀬戸内市で見ることができなかった資料を公開する魅力的な展示企画を開催する。 展示企画は、一方的な借用だけではなく、備前長船刀剣博物館や瀬戸内市の周知することを図るため、双方の館で相互に所蔵品を持ち寄り開催する巡回展なども行う。 現在、東京国立博物館や他文化施設と地域ゆかりの文化財である備前刀の相互貸借について協議を進めており、拠点計画の認定の後押しを受けて実現性を高めたい。
実施主体	瀬戸内市
実施時期	令和5・7年度
継続見込	継続して事業を実施する
アウトプット 目標	来館者数の確保への寄与（目標①の達成） 外国人来館者数の確保への寄与（目標②の達成）
必要資金 調達方法	18百万円（内訳：6百万円（入館料）12百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁））※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

(事業番号 1-⑤)

事業名	サブカルチャーコラボ展開催事業
事業内容	備前長船刀剣博物館は、平成 23 年から 6 年間サブカルチャーとコラボレーションした特別展を開催し、それまで年配者の多かった日本刀のファン層を若い世代に広げ、多くの来館者を得た。この実績を活かして新たなサブカルチャーとコラボレーションし、魅力ある展示を開催する。サブカルチャーは海外にもファンを持つものが多く、外国人観光客の回復が見込まれる年には海外ファンが来館するようにも図る。 令和 4 年度には、岡山県が JR と連携した観光誘客事業である「デスティネーションキャンペーン」を開催するので、この機会を捉えて連携を進め、効率的な来館者の増加を図る。
実施主体	瀬戸内市、瀬戸内市観光協会
実施時期	令和 4・6 年度
継続見込	継続して事業を実施する
アウトプット 目標	来館者数の確保への寄与（目標①の達成） 外国人来館者数の確保への寄与（目標②の達成）
必要資金 調達方法	24 百万円（内訳：8 百万円（入館料） 16 百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁））※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

(事業番号 1-⑥)

事業名	高付加価値体験コンテンツ開発事業
事業内容	日本刀に直接触れる体験をテーマに、日本刀の鑑賞の仕方を学び、日本刀を実際に鑑賞できるような付加価値の高い体験コンテンツの開発を行う。 〈具体例〉 ・「刀鍛冶に一日弟子入り体験 長船の刀剣工房でサムライナイフ制作」 長船の刀剣工房で刀匠に教わりながら、自身で火を扱い、鋸を振るってサムライナイフ（レターオープナー）を制作するプライベートな鍛冶体験ツアー。所要時間 6 時間程度、送迎、昼食がセット。1 名～4 名受入れ、4 万円（1 名）程度予定。（令和 2 年度観光庁事業にて造成） ・「長船の刀匠が付きっきりで作刀指南 2 泊 3 日で小刀制作」 日本の朝日百選の宿・岡山いこいの村に滞在しながら、刀匠が付きっきりで指導をしながら 2 泊 3 日で玉鋼から鍛錬した小刀を制作。2 泊 3 日の工程で、整形、土置き、火入れ（施設内に設置した鍛冶場で実施）、銘切り、荒砥ぎなど、日本刀作りのエッセンスの詰まった贅沢な体験。1 名～10 名受入れ、10 万円（1 名）程度予定。（既存の小刀制作講座を滞在型に磨き上げたもの） ・「専門家の指導で銘刀を実際に手に持てる 刀剣鑑賞体験」 よりハイグレードな文化体験を志向する方に向けた体験商品。日本刀に実際に触れることや鑑賞方法を知りたい需要は潜在的にある。専門家（5 名程度）の手ほどきを受けて、取り扱い方や鑑賞方法などのマナー講座も実施し、江戸期以前の銘刀 5 振り程度を揃えて、実際に手にとって刀剣を鑑賞する。パッケージ化し移動可能になるの

	で、リゾートホテルや旅館でのプレミアムな旅行商品の一部に組み込むことも可能。 25万円程度予定。 ・「備前おさふね刀剣の里ユニークベニュー」 刀鍛冶・刀職の工房を有する、備前おさふね刀剣の里を貸し切るもの。実施にあわせて特別に職人を揃え、古式鍛錬の実施、各種作業の実演、刀鍛冶・刀職の作品の販売などを実施。会議など MICE 利用、富裕層向けの野外パーティーなどに組み合わせることを想定。 ・刀剣関連和文化イベントの実施 刀剣に関する能の実演、プロジェクションマッピングを使った殺陣や、真剣を用いた居合斬りの実演など、刀剣文化を取り巻く周辺の和文化イベントをアトラクション的に実施する。
実施主体	瀬戸内市、瀬戸内市観光協会、(株)せとうちクルーズ、株式会社感謝
実施時期	令和3年度
継続見込	継続して事業を実施する ただし、商品化後は自走する
アウトプット 目標	来観者の満足度への寄与（目標③の達成）
必要資金 調達方法	10百万円（内訳：10百万円（文化資源の高付加価値化の促進補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

（事業番号1－⑦）

事業名	国宝「山鳥毛」拵修復・展示事業
事業内容	国宝「山鳥毛」の拵は、上杉家独特の合口拵であり、刀剣ファンに人気のある拵である。しかし、漆の剥落等状態が悪く展示できていない状況である。拵の観覧や国宝「山鳥毛」と拵を並べて観覧したいという要望は多く、国宝「山鳥毛」を紹介した動画の中に拵が出ていると SNS で拵が見えると話題になる程である。 この観覧希望が高い拵の修復を行い、展示をすることは、再来館の動機となり、来館者の確保や魅力・満足度の向上につながる。
実施主体	瀬戸内市
実施時期	令和5年度
継続見込	修復後はしばらく修復を必要としない
アウトプット 目標	来観者の満足度への寄与（目標③の達成）
必要資金 調達方法	3百万円（内訳：1百万（寄附金）、2百万（文化芸術振興費補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

（事業番号1－⑧）

事業名	刀職育成・確保推進事業
事業内容	備前おさふね刀剣の里内には刀職の工房が設けられており、刀職の作業が間近でみれ、刀職と直接会話できることは、他の刀剣展示施設と差別化できる部分であり、来館者の満足度を高めている部分である。しかし、現在は白銀師、鞆師、砥師、柄巻師の工房は空いており、週末等に他所から招聘している状況である。刀職の技術向上に

	資する材料代等の支援を行い、刀職の育成（資質向上、技術の継承）を図るとともに、刀職の支援を充実させることで工房を使用する刀職を確保し、来館者が様々な日本刀製作技術を見ることができるようにする。 また、作業を公開する刀職が来館者と接する際に、刀職の代表として捉えられるので、来館者の好感を得るために現在刀職個々の物であり統一できていない被服の貸与や接客対応スキルの向上なども行う。
実施主体	瀬戸内市
実施時期	令和4～7年度
継続見込	継続して事業を実施する
アウトプット 目標	来観者の満足度への寄与（目標③の達成） 市内在住・在房刀職者の数
必要資金 調達方法	12百万円（内訳：4百万円（寄附金）、8百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

7-1-2. 情報通信技術を活用した展示、外国語による情報の提供その他の国内外からの観光旅客が文化についての理解を深めることに資する措置に関する事業

（事業番号2-①）

事業名	山鳥毛・刀職作業デジタルコンテンツ作成事業
事業内容	観覧ニーズの高い国宝「山鳥毛」は、展示期間が年間約60日までと設定され、常に公開されているわけではない。工房も全てが常駐しているわけではなく、また刀職も個人事業主であり作業工程や個人の都合で見ることができないことがあり、未公開期間にも国宝「山鳥毛」の魅力に触れることができないか、〇〇作業を今日は見れないのですかという要望が数多く寄せられており、VR等を活用したデジタルコンテンツでの疑似体験を求める声がある。 このため、国宝の展示が無い時期や工房の刀職が不在の時にも、日本刀の魅力や日本刀製作技術を学ぶことができるように、5G通信網の活用を想定した国宝「太刀無銘一文字（山鳥毛）」や刀職作業のVR・AR等を活用したデジタルコンテンツを作成する。デジタルコンテンツは、ガラス越しでしか見られない国宝等を自分の手に取って様々な角度から見るができるようにする。また、作品の見どころなどの解説を入れ、より深く作品を知り、好きになり、実物を見たいという来訪意欲につなげる。なお、解説は多言語化は、観光庁「魅力的な多言語解説作成指針」に沿って整備する。
実施主体	瀬戸内市
実施時期	令和3年度
継続見込	開発したコンテンツは継続的に使用する
アウトプット 目標	来館者数の確保への寄与（目標①の達成） コンテンツの利用人数
必要資金 調達方法	18百万円（内訳：6百万円（市費）、12百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

(事業番号 2-②)

事業名	多言語対応専門人材の確保
事業内容	日本刀は専門用語が多く、その用語の説明も難しい。このため、多言語化には日本刀の知識がある外国人でなければ外国人観光客のガイドや展示解説の多言語化、海外への情報発信が困難である。このため、日本刀の知識を有する外国人の多言語対応専門人材を雇用する。
実施主体	瀬戸内市
実施時期	令和3～7年度
継続見込	継続して事業を実施する
アウトプット 目標	外国人来館者数の確保への寄与（目標②の達成）
必要資金 調達方法	15.6百万円（内訳：5.2百万円（市費）、10.4百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁））※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

7-1-3. 国内外からの観光旅客の移動の利便の増進その他の文化資源保存活用施設の利用に係る文化観光に関する利便の増進に関する事業

(事業番号 3-①)

事業名	シャトルバス運行事業
事業内容	JR 長船駅から備前長船刀剣博物館までは約 3.5km あるが、その間を結ぶ公共交通はなく、公共交通機関を利用して来館する観光客は不便をきたしている。このため、特別展等の多くの来館者が見込まれる展示企画の際に、JR 長船駅と備前長船刀剣博物館を結ぶシャトルバスを運行する。 シャトルバスの試行を繰り返し実施し、その実証結果を踏まえ、自立した運行ができるよう本計画の各事業により魅力ある地域づくりを進め、将来的に来訪者が増加することによる恒常的な定期バスの運行につながるよう進める。
実施主体	瀬戸内市
実施時期	令和 3～7 年度
継続見込	運行状況を確認し、乗車数が多い場合は継続して事業を行う
アウトプット 目標	来館者数の確保への寄与（目標①の達成） シャトルバスの利用者数
必要資金 調達方法	15 百万円（内訳：5 百万円（市費）、10 百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

(事業番号 3-②)

事業名	観光タクシー商品造成事業
事業内容	地域のタクシー事業者と連携し、備前長船刀剣博物館や周辺の日本刀関連史跡等を巡る観光タクシーの開発及び販売ツールの作成等を支援する。 観光タクシーの台数を増やし、通年利用可能な利用者にとって使い勝手の良いものとなるよう進める。 また、周遊観光商品（ツアー）での活用も視野に入れて進める。 ＜具体例＞ ・「山鳥毛ラッピングタクシー」 タクシーの車体を山鳥毛のイメージでフルラッピングしたタクシーを運行。刀剣をあしらった外装だけでなく、内装も刀をモチーフにしたデザインで飾り、さらにドライバーも刀鍛冶風の衣装を纏い、近辺の刀剣史跡へのガイドなどを実施する。ガイドは専門家による講習を実施し、ポケットーク等の多言語対応端末を用意し、インバウンドへの対応も可能にする。
実施主体	瀬戸内市、瀬戸内市観光協会
実施時期	令和 3～5 年度
継続見込	観光タクシーが定着化するまで継続して支援を行う
アウトプット 目標	来館者数の確保への寄与（目標①の達成） 観光タクシーの利用者数
必要資金 調達方法	3 百万円（内訳：1.2 百万円（市費）、1.8 百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

(事業番号 3-③)

事業名	レンタアートサイクル事業
-----	--------------

事業内容	瀬戸内国際芸術祭の海の玄関口である岡山県玉野市宇野では、芸術家がアートサイクルのレンタサイクルが SNS 等でも人気を博すなど好評であった。同様に日本刀を目的に来訪する観光客にとって日本刀をイメージしたアートサイクルは興味関心が高いものとなるため、芸術家と連携し、日本刀をテーマにしたアートサイクル（自転車）を作成し、JR 長船駅前のレンタサイクル取扱店に設置する。自転車は、電動アシスト付き自転車等の女性でも気軽に利用できる自転車をベースに作成する。 また、アートサイクル貸出し時には、地域の周遊を促進するため、日本刀関連地や飲食店等を掲載したマップの配布等を行う。 さらに、利便性を高めるため、パークアンドライドや設置ポートを増えやしていつでも・どこでも貸出し・返却が可能となるよう地域と連携しながら進める。
実施主体	瀬戸内市、瀬戸内市観光協会
実施時期	令和5年度
継続見込	継続して事業を行う ただし初期投資のみ
アウトプット 目標	来館者数の確保への寄与（目標①の達成） 外国人来館者数の確保への寄与（目標②の達成） レンタサイクルの利用者数
必要資金 調達方法	3百万円（内訳：1百万円（寄附金）、2百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

事業番号3-④)

事業名	備前長船刀剣博物館案内板整備事業
事業内容	JR 長船駅や2号線から備前長船刀剣博物館及び日本刀関連史跡等に至る道には、案内表示が少なく、道順を尋ねる電話がしばしば備前長船刀剣博物館に掛かってくる。今後來館者数が増え、またレンタサイクルの利用が促進されると、道を尋ねる問い合わせがますます増加することが容易に予想される。 このため、JR 長船駅や2号線から備前長船刀剣博物館及び日本刀関連史跡等に至る道に案内板（誘導版）を設置し、来訪者が迷うことなく、安心して来館できるようにする。なお、案内板は多言語標記とする。
実施主体	瀬戸内市、瀬戸内市観光協会
実施時期	令和4～6年度
継続見込	必要に応じて随時継続して事業を行う
アウトプット 目標	来館者数の確保への寄与（目標①の達成）
必要資金 調達方法	5百万円（内訳：1. 8百万円（入館料）、3. 2百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

7-1-4. 文化資源に関する工芸品、食品その他の物品の販売又は提供に関する事業

（事業番号4-①）

事業名	日本刀関連商品造成事業
-----	-------------

事業内容	地域の事業者が開発した日本刀をテーマにしたお土産はほとんど無く、来館者からここでしか買えない商品の販売の開発・販売を求められている。備前おさふね刀剣の里にある物産館が令和2年の国宝「山鳥毛」展示に合わせて地域外の日本刀関連お土産商品を集めて取り扱ったところ、販売実績が大幅に伸びたことから観光客ニーズがあることがわかる。 このため、日本刀に関連した市内民間企業等が日本刀をテーマにした工芸品や食品、その他物品の開発が促進されるよう開発経費等の支援を行うとともに、開発されたそれら商品のマーケティングや物産館での販売、宣伝等の支援を行う。特に、ご当地感のある日本刀をテーマにしたお土産品や飲食物の商品開発等の支援を行い、地域消費の拡大につなげる。 開発については、CRMの考えのもとで、ターゲットとコンセプトを明確にし、顧客ニーズに届くものであること。そのために来館者等とのマッチングの機会を増やし、その声を開発に反映するなど、顧客を巻き込んだ取り組みを推進し、地域に対して愛着を持ったファン育成に繋げる。 <具体例> 昨秋の特別展の販売実績からメインターゲットを20-40代の女性とし、国宝「山鳥毛」をイメージさせる統一デザインによるブランド展開、既存商品のブラッシュアップ等の開発補助や異業種間のマッチングを行い、果実や野菜及び穀物を用いた食品類、酒類を含む飲料、刀職の技術・道具を活用した刀剣グッズ（玉鋼の金属片に焼き入れて刃文を入れた装飾プレート、玉鋼リング・真田紐ネックレスなどのアクセサリ等）等を開発する。
実施主体	瀬戸内市、株式会社感謝
実施時期	令和3～7年度
継続見込	継続して事業を実施する
アウトプット 目標	備前おさふね刀剣の里内入館料以外の売り上げへの寄与（目標④の達成） 開発した商品数とその販売数
必要資金 調達方法	15百万円（内訳：5百万円（市費）、10百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

（事業番号4-②）

事業名	日本刀体感ツアー造成事業
事業内容	（株）せとうちクルーズは、運航するガンツウのツアーに日本の伝統文化と技術を体験する企画を計画し、令和2年度には備前長船刀剣博物館等で日本刀について知り、体験できるコンテンツの開発を本市と連携して模索した。今後は、外国人観光客や富裕層向けのツアーとして販売できるようモニターツアーの実施、ブラッシュアップなどを行い、日本刀をテーマにした宿泊を伴うツアー造成を市等と連携して開発し、販売まで伴走する。 また、瀬戸内市観光協会は、令和3年度に第3種旅行業の登録を目指している。登録ができた際には、協会の会員である市内宿泊施設と開発したコンテンツ（関連事業1-⑥）を組み合わせたツアー商品の造成を進める。ツアー商品は、事業2-②多言語対応専門人材と連携した対応を進め、ゲストハウスからホテルまでニーズに応じた外国人対応プランも開発する。

実施主体	瀬戸内市、(株)せとうちクルーズ、瀬戸内市観光協会
実施時期	令和3～4年度
継続見込	ツアーが造成されて販売できるようになったら民間事業者に移管・継続する。
アウトプット 目標	備前おさふね刀剣の里内入館料以外の売り上げへの寄与（目標④の達成） ツアーの参加者数
必要資金 調達方法	6百万円（内訳：2百万円（市費）、4百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

（事業番号4－③）

事業名	特別展連携地域消費拡大事業
事業内容	備前長船刀剣博物館は、平成23年から6年間サブカルチャーとコラボレーションした特別展を開催し、その際にはオリジナル商品を制作して特設販売コーナーを設けた。その結果、オリジナル商品の購入を目的とした来館者があるなど大きな販売実績を上げ、また、飲食店と連携した企画（一定額飲食したらコラボグッズを配布）により地域の飲食店の売り上げにも貢献した実績がある。 このため、特別展開催（関連事業1－④、1－⑤）に合わせ、瀬戸内市観光協会が市内事業者等と調整し、官民連携してコラボ商品や飲食店連携事業を行い、地域消費の拡大を図る。
実施主体	瀬戸内市、瀬戸内市観光協会
実施時期	令和4～7度
継続見込	特別展の内容に合わせて内容を検討して実施する
アウトプット 目標	来館者数の確保への寄与（目標①の達成） 備前おさふね刀剣の里内入館料以外の売り上げへの寄与（目標④の達成）
必要資金 調達方法	12百万円（内訳：4百万円（市費）、8百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

7-1-5. 国内外における文化資源保存活用施設の宣伝に関する事業

（事業番号5－①）

事業名	日本刀の聖地情報発信事業
事業内容	国宝「山鳥毛」購入を目標とした『山鳥毛里帰りプロジェクト』はメディア等に数多く取り上げられ、瀬戸内市が日本刀の産地であることなどの認知度が向上し、令和元年度の来館者数の増加に寄与した。 認知度を高め、維持するためにはコンスタントにメディアに取り上げられることが必要であるため、備前長船刀剣博物館の展示内容に合わせ、主たる来館者である、岡山県内や隣県、京阪神地域をターゲットに雑誌やテレビ等のメディアを活用した情報発信を継続して行う。また、愛刀家や刀剣ファンの女性が購読する専門的な雑誌等への掲出も継続して行う。
実施主体	瀬戸内市、瀬戸内市観光協会

実施時期	令和3～7年度
継続見込	継続して事業を実施する
アウトプット 目標	来館者数の確保への寄与（目標①の達成）
必要資金 調達方法	25百万円（内訳：10百万円（市費）、15百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁））※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

（事業番号5－②）

事業名	備前長船刀剣博物館ホームページ多言語化事業
事業内容	備前長船刀剣博物館のホームページは、翻訳ソフト機能による多言語化に対応しているのみであり、専門用語の多い日本刀については外国人に理解しがたいものとなっている。 このため、外国人が日本刀について基本的な知識を得、備前長船刀剣博物館でより深く日本刀について知ることができることを理解し、来館意欲につながるよう、観光庁「魅力的な多言語解説作成指針」に沿った英語表記のホームページを作成する。 作成にあたってはJNTOの「外国人旅行者を魅了するウェブサイトの作り方」を参照に進める。
実施主体	瀬戸内市
実施時期	令和5年度
継続見込	継続して事業を実施する
アウトプット 目標	外国人来館者数の確保への寄与（目標②の達成）
必要資金 調達方法	3百万円（内訳：1百万円（市費）、2百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁））※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

（事業番号5－③）

事業名	外国人観光客ツアー誘客促進プロモーション事業
事業内容	備前長船刀剣博物館では、フランス人のツアーが増加しており、そのほとんどが東京にあるランドオペレーターを通じてのツアーであった。 多言語化の推進（関連事業2－②、6－②）に合わせて、インバウンド商談会でのPRやターゲットとする欧米の外国人観光客等のランドオペレーターに訪問して外国人観光客のツアーの来館数の増加を図る。また、個人外国人が活用するインターネットサイトでの備前長船刀剣博物館の露出アップや掲載ランクの向上を図るプロモーションも展開する。 プロモーション実施前には、JNTOに相談する等、より高い効果が得られるように進める。
実施主体	瀬戸内市
実施時期	令和4～7年度
継続見込	継続して事業を実施する
アウトプット	外国人来館者数の確保への寄与（目標②の達成）

目標	
必要資金 調達方法	4 百万円 （内訳： 1. 6 百万円（市費）、2. 4 百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁））※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する
7-1-6. 7-1-1～7-1-5 の事業に必要な施設又は設備の整備に関する事業	
(事業番号 6-①)	
事業名	展示ケース購入事業
事業内容	国宝の購入に伴い、安全に展示できる展示ケースを令和 2 年に 1 台購入した。このケースにより、来館者は、これまで正面からしか見ることができなかった日本刀を 360° から観覧できるようになり、満足度を高めることにつながった。 現在 1 台しかない 5 面ガラスエアタイトケース（免震台付）を追加購入して 2 台とすることで、今後、他文化施設等から貸借した指定文化財等の優れた日本刀や現在展示できていない国宝「山鳥毛」の拵を並べて展示することができ、展覧会の魅力が高まり集客につながる。また、これまで見ることができなかった角度から鑑賞することができ、来館者の満足度の向上にもつながる。 ■ 関連事業（1-④、1-⑤、1-⑦）
実施主体	瀬戸内市
実施時期	令和 5 年度
継続見込	購入後は継続して事業を行う必要はない
アウトプット 目標	来館者数の確保への寄与（目標①の達成）
必要資金 調達方法	1 2 百万円 （内訳： 4 百万円（市費）、8 百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁））※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する
(事業番号 6-②)	
事業名	刀剣の世界改修整備事業
事業内容	日本刀製作技術等の基礎知識を得る展示室「刀剣の世界」は、なぜこの地域が日本刀の主要生産地になったかなどの地域特性についての説明が無く、また解説文が日本語表記のみであり外国人観光客は、多言語化した解説パンフレットを参考にしなければならない。このため、この地域の特性を知り、地域を好きになり、何度もこの地域に訪れる日本刀ファンの裾野を広げることや外国人に日本文化を分かりやすく伝えることを目指し、展示解説文の多言語化や体験展示の導入など展示内容のリニューアルを行う。 なお、多言語化は、観光庁「魅力的な多言語解説作成指針」に沿って整備する。 ■ 関連事業（2-②、5-③）
実施主体	瀬戸内市
実施時期	令和 5～6 年度
継続見込	整備後は継続して事業を行う必要はない
アウトプット	外国人来館者数の確保への寄与（目標②の達成）

目標	
必要資金 調達方法	140万円（内訳：50万円（市費）、90万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する
事業番号6-③)	
事業名	備前長船刀剣博物館駐車場整備事業
事業内容	平成23年から6年間開催したサブカルチャーとのコラボ展や令和元年に開催した山鳥毛一時里帰り公開では、多くの来館者があり、備前おさふね刀剣の里の中庭を臨時駐車場として開放し、近隣の土地や施設駐車場を借用して臨時駐車場としたが、それでも駐車場が不足し、駐車場に入れず道路で待機する車両があり、地域や警察から改善するよう指摘を受けた。 今後、本計画に沿って事業を進め、来館者数の向上を図ると、車での来館者数も増加し、そのための駐車場が必要となる。このため、駐車場不足を解決する必要がある、博物館に隣接する土地を買い上げ、新たに80台程度が駐車できる駐車場を整備する。 また、駐車場内にサイクルスペースを設け、長船を拠点として、備前焼や片鉄ロマン街道サイクルルートによる備前、和気地域との連携、牛窓地域への周遊も促進する。 ※令和3年度：測量費、設計費 令和4年度：造成工事費、舗装工事費 土地購入費は含まない ■ 関連事業（1-④、1-⑤、1-⑦、3-③）
実施主体	瀬戸内市
実施時期	令和3～4年度
継続見込	整備後は継続して事業を行う必要はない
アウトプット 目標	来館者数の確保への寄与（目標①の達成） 民間施設の借り上げの解消 公道への駐車待機列の解消
必要資金 調達方法	66.6万円（内訳：44.5万円（市費（寄附金））、22.1万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する

(留意事項)

- ・事業の内容を具体的に記載してください。各事業の実施により関係機関の事務又は事業に関する事項（例：交通規制の実施及び変更が必要となる可能性がある事項）を記載する場合は、事業内容にその旨を明記してください。また、国指定等文化財の所蔵公開を行う施設において施設設備の改修等を伴う事業を実施する場合、事業内容にその旨を明記してください。
- ・実施主体は明確に記載してください。
- ・実施時期は、計画期間内において、いつ実施するか、始期及び終期を明確に記載してください。
- ・継続見込みは、計画期間終了後も事業を継続する予定のものについて、どのように自律的に資金を確保して実施していくのか、計画終了後も必要な取組を継続できる見通しを具体的に記載してください。
- ・アウトプット目標は、事業の実施によって直接的に実現される状態を具体的に記載してください。
- ・7-1-6には、7-1-1～7-1-5の事業のうち、どの事業に必要な施設又は設備の整備かを明確に記載してください。
- ・原則として、7-1-1～7-1-6の全ての項目について、それぞれ事業を実施する必要がありますが、既に十分に実施しているため新規に事業を行わない場合には、「事業内容」に既に十分に実施している取組の内容を記載してください。

7-2. 特別の措置に関する事項

7-2-1. 必要とする特例措置の内容

事業番号・事業名	
必要とする特例の根拠	文化観光推進法第 条（ 法の特例）
特例措置を受けようとする主体	
特例措置を受けようとする事業内容	
当該事業実施による文化観光推進に対する効果	

（留意事項）

- ・「事業番号・事業名」には、4-1 の事業番号及び事業名を記載してください。
- ・「必要とする特例根拠」には、特例を受けようとする文化観光推進法の条文を抜粋し、「〇〇〇法の特例」と（ ）内に記入してください。
- ・「特例措置を受けようとする事業内容」には、以下のいずれかの事業の概要を記入するとともに、当該事業の内容を特例措置との関係が分かるよう簡潔に記入してください。
 - ・文化資源保存活用施設に来訪する国内外からの観光旅客を対象とする共通乗車船券に係る運賃又は料金の割引を行う事業
 - ・国土交通省関係文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律施行規則（令和2年国土交通省令第47号。以下「国交省令」という。）第2条に規定する事業
 - ・国交省令第3条に規定する事業
 - ・国交省令第4条に規定する事業

7-3. 必要な資金の額及び調達方法

	総事業費	事業番号	所要資金額	内訳
令和3年度	52. 8百万円	事業番号1-②	3百万円	1百万円(市費) 2百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号1-⑥	10百万円	10百万円(文化資源の高付加価値化の促進補助金(文化庁))
		事業番号2-①	18百万円	6百万円(市費) 12百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号2-②	1. 2百万円	0.4百万円(市費) 0.8百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号3-①	2百万円	1百万円(市費) 1百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号3-②	1百万円	0.4百万円(市費) 0.6百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号4-①	3百万円	1百万円(市費) 2百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号4-②	3百万円	1百万円(市費) 2百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号5-①	5百万円	2百万円(市費) 3百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号6-③	6. 6百万円	2.2百万円(市費) 4.4百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
令和4年度	102. 6百万円	事業番号1-②	3百万円	1百万円(市費) 2百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号1-③	1百万円	0.4百万円(市費) 0.6百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号1-⑤	12百万円	4百万円(市費) 8百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号1-⑧	3百万円	1百万円(市費) 2百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号2-②	3. 6百万円	1.2百万円(市費) 2.4百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号3-①	3百万円	1百万円(市費) 2百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号3-②	1百万円	0.4百万円(市費) 0.6百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号3-④	1百万円	0.4百万円(市費) 0.6百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号4-①	3百万円	1百万円(市費) 2百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号4-②	3百万円	1百万円(市費) 2百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号4-③	3百万円	1百万円(市費) 2百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号5-①	5百万円	2百万円(市費) 3百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号5-③	1百万円	0.4百万円(市費) 0.6百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号6-③	60百万円	38百万円(市費) 22百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))

令和5年度	67. 6百万円	事業番号1－①	6百万円	2百万円(市費)	4百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号1－②	3百万円	1百万円(市費)	2百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号1－③	1百万円	0.4百万円(市費)	0.6百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号1－④	9百万円	3百万円(市費)	6百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号1－⑦	3百万円	1百万円(市費)	2百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号1－⑧	3百万円	1百万円(市費)	2百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号2－②	3. 6百万円	1.2百万円(市費)	2.4百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号3－①	3百万円	1百万円(市費)	2百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号3－②	1百万円	0.4百万円(市費)	0.6百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号3－③	3百万円	1百万円(市費)	2百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号3－④	3百万円	1百万円(市費)	2百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号4－①	3百万円	1百万円(市費)	2百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号4－③	3百万円	1百万円(市費)	2百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号5－①	5百万円	2百万円(市費)	3百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号5－②	3百万円	1百万円(市費)	2百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号5－③	1百万円	0.4百万円(市費)	0.6百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号6－①	12百万円	4百万円(市費)	8百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号6－②	2百万円	1百万円(市費)	1百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
令和6年度	56. 6百万円	事業番号1－①	6百万円	2百万円(市費)	4百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号1－②	3百万円	1百万円(市費)	2百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号1－③	1百万円	0.4百万円(市費)	0.6百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号1－⑤	12百万円	4百万円(市費)	8百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号1－⑧	3百万円	1百万円(市費)	2百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号2－②	3. 6百万円	1.2百万円(市費)	2.4百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号3－①	3百万円	1百万円(市費)	2百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号3－④	3百万円	1百万円(市費)	2百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号4－①	3百万円	1百万円(市費)	2百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))

令和7年度	34.6百万円	事業番号4-③	3百万円	1百万円(市費)	2百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号5-①	5百万円	2百万円(市費)	3百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号5-③	1百万円	0.4百万円(市費)	0.6百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号6-②	12百万円	4百万円(市費)	8百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
	314.2百万円	事業番号1-②	3百万円	1百万円(市費)	2百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号1-③	1百万円	0.4百万円(市費)	0.6百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号1-④	9百万円	3百万円(市費)	6百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号1-⑧	3百万円	1百万円(市費)	2百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号2-②	3.6百万円	1.2百万円(市費)	2.4百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号3-①	3百万円	1百万円(市費)	2百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号4-①	3百万円	1百万円(市費)	2百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号4-③	3百万円	1百万円(市費)	2百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号5-①	5百万円	2百万円(市費)	3百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
		事業番号5-③	1百万円	0.4百万円(市費)	0.6百万円(文化芸術振興費補助金補助金(文化庁))
合計	314.2百万円				

8. 計画期間

計画期間は、令和3年4月から令和8年3月までの5カ年とする。

(留意事項)

- ・文化観光の推進に集中的に取り組む期間として、概ね5年以内で設定してください。原則として、年度単位で設定してください。

※枠は自由に拡大、縮小し、必要に応じて図表や写真を挿入してください。

※本様式のほか、上記の記載内容を補足する資料がある場合、添付してください。

※申請の際には、(留意事項)を削除して提出してください。